

ハワイ・北米における日本人移民および 日系人に関する資料について (補遺)

神 繁 司

本号では、『参考書誌研究』47号(1997.3)～66号(2007.3)に掲載された「ハワイ・北米における日本人移民および日系人に関する資料について」の訂正(1<正誤表>), 状況変化についての補足(2<追加記述>)及び主な資料の追加(3<追加資料>)を, 各号ごとに纏めた。

訂正(<正誤表>)につき, 以下の場合には逐一訂正していないことを, ご了承願いたい。

- ①句読点・記号等の不統一(例:、→, /- →~)
- ②軽微な文法上の誤り
- ③ゴシック・イタリック等, 書体の不統一
- ④用語の不統一(例:本稿・本号・文献/論考・論稿)
- ⑤前後の記述から判断できる資料名・人名等の誤り
- ⑥書誌事項における記述順(出版社・刊行年・掲載頁等)の不統一
- ⑦収録時当館<未所蔵>資料の所蔵による<請求記号>付与, 及び媒体変換に伴う新<請求記号>の付与
- ⑧複数箇所引用されている資料については, 資料番号を付したメインエントリーが誤っている場合のみ, メインエントリーを訂正し, 他の引用部分の誤記はそのままとした。
例1: 正/199. 移民研究会編『日本の移民研究 動向と目録』(48号, p.29), 誤/移民研究会編「日本の移民研究 動向と目録」(47号, p.18)
→訂正せず
例2: 正/332. 渡辺礼三『ハワイの日本人・日系人の歴史』上巻(52号, p.36), 誤/渡辺礼三『ハワイの日本人日系人の歴史』上巻(47号, p.12) →訂正せず
- ⑨資料番号付与の異同

単行資料中に複数の論文等を収録する場合、各論文等のエントリーは、単行資料の番号を付与するのを原則としたが、各論文等のエントリーに一連の固有番号を付与したものがあある。この場合、煩瑣を避けるため、注記・引用等で混乱をきたさない範囲で、資料番号の訂正を行わなかったものがある。

例：144. 田村紀雄・白水繁彦編著『米国初期の日本語新聞』勁草書房……／461. 田村紀雄「概説 初期の米国日系新聞の流れ」144. 田村・白水編著『米国初期の日本語新聞』…… →田村論文資料番号を461のままとした。(『参考書誌研究』54, pp.84-85)

なお、主な資料の追加については、本稿(5)、注2) (『参考書誌研究』58:2003.3, pp.76-78)及び本稿(6)、注47) (『参考書誌研究』66:2007.3, pp.30-37)以降の邦語単行書を中心に、主題的なものも含め、適宜、解題を加えた。両号も併せて参照されたい。

(1) 【外交史料／府県庁等地方公文書・県史等地方史誌／統計・名簿・名鑑・年表】
第47号：1997.3, pp.1-49

1 <正誤表>

頁(行)	誤	正
40(4)	日布時事	日布時事社
40(15)	『布哇歴史』興学会教育部	『布哇歴史』改訂版, 興学会
43(5)	年史叢書, 昭和17年刊の複製	年史叢書, 井田書店, 昭和17
43(6)	110. 「海外移住年表」	50. 「海外移住年表」
43(33)	120. 「広島県移住史年表」	42. 「広島県移住史年表」
44(15)	129. 「『元年者』移民関係年	85. 「『元年者』移民関係年表
45(21)	田村紀雄・白水繁彦編	田村紀雄・白水繁彦編著

2 <追加記述>

○ 【外交史料】

「外交史料館」所蔵史料の一部が、国立公文書館「アジア歴史資料センター」(2001. 11. 30開設, <http://www.jacar.go.jp/>; Internet Accessed 24 August 2007. 以下ウェブサイト最終アクセス日は同年同月、記述省略)のデータベースから利用可能である。また、「外交史料館」ウェブサイトの所蔵史料ペ

ージには、戦前期「外務省記録」ほか外交史料の解説があり、「外交史料(外務省資料)」の概要把握に資する。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/>

○35. ハワイ日本人移民関係記録《外交史料館所蔵》(p.11)

昭和62年(1987)8月に、在ホノルル日本国総領事館から移管された本記録は、平成13年(2001)11月に「ハワイ移民関係史料」として一部公開された。明治9年から昭和16年までの移民関係書類及び日本への帰国届けなど全53冊。

○Ⅱ. 注10)『奈良県史』に関する記述 (p.24)

「しかし、文書館・史料館がないという事情も反映してか……」

→平成17年(2005)11月3日、公文書館機能を併せ持つ「奈良県立図書館情報館」が開館した。

(奈良県立図書館情報館 <http://www.library.pref.nara.jp/index.html>)

3 <追加資料>

【外交史料一般に関する基本文献】(pp.3-4)

○『外交史料館報』10：1996.12(外交史料館開館二十五周年<特集>)

<Z1-442>

外交史料館開館25周年、『日本外交文書』刊行60周年、『外交史料館報』発刊10周年記念に因んだ記事を中心に収録。増田勝彦「公開活動のためには史料の保存をどう位置づけていくべきかー外交史料館所蔵史料保存管理検討委員会報告書に基づいて」pp.54-73、高橋久志「米国等における昭和戦前期日本関係史料について」pp.74-95、「外交史料館開館二十五周年関係年表」pp.116-127などを収録。

○『外交史料館報』20：2006.10(『日本外交文書』七〇周年<特集>)

<Z1-442>

外交史料館開館35周年、『日本外交文書』刊行70周年、『外交史料館報』発刊20周年記念に因んだ記事を収録。

○熊本史雄「『日本外交文書』の編纂と「外務省記録」ー史料学的アプローチの前提として」『社会文化史学』47：2005.3, pp.31-50 <Z8-356>

○小池聖一「外務省文書・外務省記録の生成過程ー外務省文書の文書学的一試論」『日本歴史』584：1997.1, pp.1-15 <Z8-255>

○小池聖一「外務省記録・文書と外交文書編纂」『東アジア近代史』7：2004.3, pp.5-20(東アジア近代の統治<特集>) <Z71-B579>

- 柳下宙子「外務省における戦前期の公信書式の変遷について」『外交史料館報』9：1996.3, pp.40-50 < Z1-442 >
- 柳下宙子「戦前期外務省における電信書式の変遷」『外交史料館報』15：2001.6, pp.105-122 < Z1-442 >
- 高嶋雅明「復刻版『通商公報』解説」『復刻版 通商公報 解説・総索引 1』不二出版, 1997, pp.1-15 < Z79-B51 >

【領事報告】 (pp.6-7)

- 外務省通商局編『日刊海外商報』(14.『通商公報』の継続後誌)全15巻・別冊1, 1-1136号：大14.1.6-昭3.3.31, 不二出版, 2005-2006 (15.『日刊海外商報』の複製, 継続後誌は16.『週刊海外経済事情』, 別冊「『日刊海外商報』解説・総目次」／高嶋雅明「『日刊海外商報』解説」pp.1-11) < Z79-B254 >
外務省「領事報告」の継承関係については, 『参考書誌研究』47号, pp.6-7を参照のこと。

【その他】 (p.10)

- 『紀元二千六百年祝典記録』全26巻・別巻1, ゆまに書房, 1999-2002 (国立公文書館蔵の複製, 別巻「総目次・解題」／古川隆久「『紀元二千六百年祝典記録』解題」pp.181-198, 近代未刊史料叢書2) < AZ-237-G11 >ほか

昭和15年(1940)11月10日に行われた「紀元二千六百年祝典」に関する公式記録『紀元二千六百年祝典記録』(全13冊, 昭18)及び関連資料の復刻。当時, 昭和天皇の伝記編纂用などとして12部のみ作成され, 関係機関に配布された。現存するのは, 国立公文書館・宮内庁・同志社大学・檀原神宮のみ。本祝典には在外同胞も多く参加し, 海外でも奉祝行事が行われた(参照：32.『紀元二千六百年奉祝 第一回在外同胞代表者会議議事録』拓務省・外務省, 昭15 < DC812-137 >)。

【地方史誌目録等】 (pp.17-18)

- 飯澤文夫編『地方史文献年鑑』1997～, 岩田書院, 1999～(郷土史研究雑誌目次総覧) < GB1-G42 >ほか
(「地方史研究雑誌データベース」岩田書院 <http://www.iwata-shoin.co.jp/>)
- 日外アソシエーツ編『CD 県史誌1 関東一近世(通史/資料)編』〔電子資料〕日外アソシエーツ, 2006 < YH231-H8884 >
- 日外アソシエーツ編『CD 県史誌2 関東一近現代(通史/資料)編』〔電子資料〕日外アソシエーツ, 2006 < YH231-H9224 >

ある事項が、どの県史誌のどこに記述されているかを横断検索することができる、CD-ROM版の内容索引データベース。目次に掲載されていない情報や引用史資料・論文名などからも検索可。関東に引き続き、東海・近畿も続刊予定。

- 日外アソシエーツ編集部編『**全国地方史誌総目録 北海道・東北・関東・北陸・甲信越**』日外アソシエーツ，2007 <東京本館未所蔵>

- 日外アソシエーツ編集部編『**全国地方史誌総目録 東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄**』日外アソシエーツ，2007 <東京本館未所蔵>

明治以降刊行された地方史誌を、各都道府県・市区町村別に排列。原本調査により、それぞれの収録内容・範囲を記載。「自治体名索引」により、旧市区町村名からも検索することができる。

【統計】 (pp.25-37)

- 一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター編『**郡是・町村是資料 マイクロ版集成**』〔マイクロ資料〕全105リール，丸善，1999 <YD1-403>

『参考書誌研究』58号，p.76<新規追加資料>において、『**郡是・町是資料 マイクロ版集成**』と誤記。

- 外務省通商局編『**海外日本実業者の調査**』全8巻，不二出版，2006-2007 (複製，解説／高嶋雅明『『海外日本実業者の調査』解説』第1巻，pp.1-8) <D4-H720>ほか

日露戦争直前の明治36年(1903)10月から昭和戦前期まで，計22回にわたり実施された調査報告。「海外日本実業者ノ調査」「海外日本実業者之調査」「在外本邦実業者調」と改題。国立国会図書館では，60.外務省通商局編「在外本邦実業者調」(昭和10,11年12月末現在)のみ所蔵。

- 柳田利夫『『海外各地在留本邦人職業別人口表』解説』『**海外各地在留本邦人職業別人口表**』第1巻，不二出版，2002，pp.1-21 <YP2-H1>

外務省通商局編『海外各地在留本邦人職業別人口表』全5巻・附録1 <YP2-H1>ほか(既出，『参考書誌研究』58号，p.76)は，61.『海外各地在留本邦人職業別人口表』などの「外務省調書」を中心に，明治44年(1911)～昭和15年(1940)の計45表を，年次別に復刻・収録したもの。外務省記録の欠年度については，『日本帝國統計年鑑』等で補い附録とした。領事報告と『日本帝國統計年鑑』との関係，本表の変遷等につき解説。

【年表】 (pp.42-46)

- 法政大学大原社会問題研究所編『**社会・労働運動大年表**』新版，全2巻

(索引とも) 労働旬報社, 1995

< E2-E207 >

開国以降の日本の労働運動・社会運動を中心に、政治・法律、経済・経営、社会・文化、国際事項などを詳細に記録する「民衆の側から見た近代総合年表」。旧版『社会・労働運動大年表』全3巻・別巻1, 1986-87 < E2-235 > 刊行以降、毎年の年表は、『日本労働年鑑』 < Z41-2861 > に同形式で収録されている。大原社会問題研究所の創立75周年(1994年)を機に、旧版を大幅に改訂・増補し、解説索引と年表索引を一本化し、利用の便を図った。各年表事項に出典が付され、索引巻に「出典一覧」がある。1995年以降の年表は、旧版同様、『日本労働年鑑』第66集(1996年版)以降に、同形式で収録。

(大原デジタルライブラリー 大原クロニカ『社会・労働運動大年表』
データベース <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/kensaku/nenpyo.html>,
解説編 <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/khronika/index.html>)

(2) 【文献・史資料目録/レファレンス・ワーク】

第48号：1997.10, pp.18-53

1 <正誤表>

頁(行)	誤	正
19 (32)	110. 「移住関係参考文献」	50. 「移住関係参考文献」
19 (33)	[1972]	[1971]
28 (30)	「日系市民協会 (JACL)」	「 <u>全米</u> 日系市民協会 (JACL) * 「日系アメリカ協会」ほかの呼称もあるが、「全米日系市民協会」で統一
31 (13)	207. 『カナダ関係邦語文献目録』『カナダ関係邦語文献目録』	207. 『カナダ関係邦語文献目録』 <u>1977-1988</u> , 『カナダ関係
32 (31)	後掲218学位論文目録,	後掲 <u>220</u> 学位論文目録,
38 (29)	『国立民族学博物館要覧』 1997	『国立民族学博物館要覧』 <u>1977</u>
47 (4)	<D2-A 78>	<D2- <u>A 87</u> >
49 (5)	254. 吉田光邦編	<u>113</u> . 吉田光邦編
51 (13)	「日系市民協会 (JACL)」	「 <u>全米</u> 日系市民協会 (JACL)」

2 <追加記述>

○【各機関所蔵目録】(pp.19-29)

掲載当時未公開であった資料も含め、現在は、大学をはじめ多くの機関のウェブサイトで所蔵資料の検索が可能となっている。しかし、各テーマ別に編集された紙媒体目録の効用は減じるものではない。

例①：ハワイ大学「梶山文庫 Kajiyama Collection」

<http://www.hawaii.edu/asiaref/japan/special/kajiyama/index.htm>

→ Immigration Related Resources (日系移民関係文献)

例②：国立国会図書館「日系移民関係資料」(文書類・刊行物)

http://www.ndl.go.jp/jp/data/kensei_shiryo/index.html

○199. 移民研究会編『日本の移民研究 動向と目録』日外アソシエーツ, 1994 <DC812-E190> (pp.29-30, ほか)

本書刊行以降の移民研究の多様化と、質・量ともに進展した状況を反映して、今夏、研究視座の再検討を踏まえた改訂版が刊行の予定である。改訂版の構成は、概ね以下のようなものである(章立て省略)。

Part I：移民と国家(出移民/国籍関係/越境, 国家政策, 帰米, 新移民/経済活動/戦時収容, リドレス, 再定住)

Part II：コミュニティ(コミュニティ, 異人種関係/宗教/教育・言語/マスメディア, ジャーナリズム/文化/女性/医療・健康福祉)

Part III：アジア, オセアニア, 中南米, その他(アジア/オセアニア/中南米, 「出稼ぎ」)

復刻版の紹介/目録/事項・人名索引

3 <追加資料>

【各機関所蔵目録】(pp.24-29)

○和田敦彦『書物の日米関係—リテラシー史に向けて』新曜社, 2007(「関連年表」 pp.339-337) <UL613-H4>

米国議会図書館を含め、アメリカの主要大学で所蔵する日本語資料コレクションについての蔵書史。人の移動に伴う書物(資料)の移動, 日本人・日本語・日本研究・占領・図書館, そこに織り成す諸要因の関係性を, 「リテラシー史」という観点から論述する。米国の日本語資料コレクションに関する必読のレファレンスであろう。

著者・和田敦彦については、『参考書誌研究』58, p.94, p.96を参照。なお, 財団法人「日本力行会」(明治30年創業)刊行・所蔵資料の整理・

公開プロジェクトを2003年度より行っており、成果については、「日本力行会」のウェブサイト (<http://www.rikkokai.or.jp/mokuroku-1.htm>) で公開されている。「日本力行会」については、『参考書誌研究』58, pp.71-72, p.77, pp.92-94 参照。

(和田敦彦ホームページ <http://www.f.waseda.jp/a-wada/index.html>)

【邦語文献目録】 (pp.29-31)

- 米山裕「太平洋戦争前の在米・在加日本人による日本語文献 (1) —人名録等の伝記的資料」『立命館言語文化研究』17 (14) : 2006.3, pp.43-58 (日系文化研究会<特集1>) < Z12-830 >
- 日外アソシエーツ株式会社編『「日本研究」図書目録 1985-2004 —世界の
中の日本』日外アソシエーツ, 2005 < GB1-H41 >
- 日外アソシエーツ編集部編『文献目録 日本論・日本人論 1996-2006』日外アソシエーツ, 2007 < 東京本館未所蔵 >
『文献目録 日本論・日本人論の50年 1945-1995』1996 < GB1-G20 > の
継続書誌。

【辞典・事典-歴史一般】 (pp.44-45)

- 『植民地資料事典』全4巻, 日本図書センター, 2003 (『日本植民地要覧』
『植民地要覧』『植民地大鑑』の複製) < DC641-H4 >ほか
第2-4巻, 深尾幸太郎『植民地大鑑』東洋タイムス社, 大正5 (複製版
は大正6) < 347-46 > < 原本代替請求記号 YD5-H-347-46 (マイクロフ
ィッシュ) > は, 関係各省の公文書及び領事報告や植民地関係の内外の
書籍・雑誌等を資料とし, 南米・カナダ・ハワイ・南洋諸島について記
述。

『満州年鑑』『樺太年鑑』『南洋年鑑』『台湾年鑑』などを集成する『植民地年鑑』日本図書センター, 1999-2001 < GE357-H13 > ほかも参照のこと。

(3) 【概説書】

第52号 : 2000.3, pp.17-88

1 <正誤表>

頁 (行)	誤	正
33 (36)	320. 相賀溪芳 (安太郎)	320. 相賀 <u>溪</u> 芳 (安太郎)
39 (37)	Japanese in Hawai`i,	Japanese in <u>Hawai`i</u> .

52 (6)	「歴史煙滅の嘆」	「歴史湮滅の嘆」
54 (5)	『一世 黎明期アメリカ移民の物語』	『一世 黎明期アメリカ移民の物語り』
63 (29)	*我孫子久太郎	* <u>安</u> 孫子久太郎
72 (40)	なお、伊藤隆…予定である。	一行全削除
76 (5)	(1990年休刊)	(<u>1991</u> 年休刊)
77 (7)	由井大三郎『日米戦争観の相』	<u>油井</u> 大三郎『日米戦争観の相』
80 (11)	History in Hawai'i,	History in <u>Hawai 'i</u> ,
80 (19)	Hawai'i, Monroe,	<u>Hawai 'i</u> , Monroe,
82 (15)	信山社, 1997	信山社出版, 1997
87 (3)	注8) 所収	注 <u>10</u>) 所収
87 (13)	「ある社会主義者の肖像…」	「ある <u>明治</u> 社会主義者の…」
87 (28)	「力行会」の創始者で…」	「 <u>日本</u> 力行会」の創始者で…」

2 <追加記述>

なし

3 <追加資料>

【通史・概説書】(p.24～)

- 横田睦子『渡米移民の教育―葉で読む日本人移民社会』大阪大学出版会, 2003 (「参考文献」 pp.187-198 「資料」 pp.199-200 「年表「葉」と日本人移民史 (1868-1924) p.201」 < DC812-H64 >
 博士論文『「葉 (しおり)」で読む日本人移民社会―日米移民教育の諸相』大阪大学, 2002 < UT51-2002-F792 > に加筆・修正したもの。初期移民渡米期・移民渡米全盛期・排日対応期における移民社会と移民教育を、各機関が発行した「葉」を通して考察する。
- 小林英夫監修, 大蔵省管理局 [編] 『日本人の海外活動に関する歴史的調査』全23巻 (24冊), ゆまに書房, 2002 < DC812-H77 > ほか
 既出, 303. 『日本人の海外活動に関する歴史的調査』高麗書房, 1985 < AZ-641-31 > (『参考書誌研究』52, p.28) は、いわゆる海賊版。本書の復刻・刊行をめぐる「龍溪書舎問題」については、『参考書誌研究』52, p.73, 注17) 及び『日本人の海外活動に関する歴史的調査の刊行を促進する会会報』「日本人の海外活動に関する歴史的調査の刊行を促進する会, 1-13: 1973.9-1980.7 (欠: 11, 12号) < Z33-1904 > を参照。ゆまに書房

復刻版の「凡例」には「本書の内容について、大蔵省としては、原調査資料は公刊するために執筆されたものではなかったため、責任を持てるものではないとしている。」との記述がある。

本書の一部が、「アジア経済研究所図書館」のウェブサイト（南方軍政・海軍資料を中心とした「岸幸一コレクション」http://opac.ide.go.jp/kishi_collection/index.html）で利用可能。

- 小笠原省三編述『海外神社史』ゆまに書房，2004（『海外神社史』上巻，海外神社史編纂会，昭28<HL61-142>の複製，菅浩二「解題 海外神社運動の思想を読む」pp. (3)-(13)，保坂正康「『海外神社史』解説」pp. (15)-(25)，嵯峨井健編「小笠原省三年譜—海外神社活動家の軌跡」pp. (27)-(36)

< HL51-H18 >

- 小笠原省三『海外の神社—並にブラジル在住同胞の教育と宗教』ゆまに書房，2005（『海外の神社—並に「ブラジル在住同胞の教育と宗教」』，神道評論社，昭8<619-235>の複製，菅浩二「解題「拓地植民」と神社」pp. (3)-(13)，保坂正康「解説 昭和史における本書の意味」pp. (15)-(25)

< HL51-H28 >

海外神社の布教・研究に活躍した小笠原省三の代表的著作の復刻版。新聞と同じく「日本人のあるところ必ず神社あり」と言われるように，宗教史のみならず，植民地史・移民史研究に多くの素材を提供する。

- 守屋友江『アメリカ仏教の誕生—二〇世紀初頭における日系宗教の文化変容』現代史料出版，2001（「参考文献一覧」pp.262-280「今村恵猛著作一覧」pp.281-286，阪南大学叢書 64）

< HM168-G262 >

博士論文『アメリカ仏教の誕生—今村恵猛論（The Birth of Americanized Buddhism—A Historical Study of Japanese Buddhism with Special Reference to Bishop Yemyo Imamura）』明治学院大学，1999<UT51-99-Z399>を加筆・訂正したもの。ハワイの仏教（浄土真宗）布教に大きな影響力を持った今村恵猛^{なみょう}の思想的変遷を歴史的な背景から分析することで，日本仏教が「アメリカ仏教」となる過程を明らかにする。ハワイにおける「アメリカニゼーション」運動など，日系コミュニティの動向が記されている。

【全般・ハワイ・北米】（pp.26-32）

- 高橋幸春『日系人その移民の歴史』三一書房，1997（「参考文献」pp.266-268，三一新書）

< DC812-G66 >

北米日本人移民排斥からの南米移民史。

- 山田勉生『船にみる日本人移民史—笠戸丸からクルーズ客船へ』中央公論

社, 1998 (「主な参考文献」 pp.230-233 「移民船要目表」 pp.234-239, 中公新書) < DC812-G91 >

移民(移動)に必須の手段であった「移民船」。「人間を運ぶ貨物船」から移民船の終焉まで, 北米航路・南米航路などの変遷を通じて, 知られざる移民史の一面を辿る。石川達三『蒼氓』をオーバーラップさせ, 「神戸移民収容所」についても記す。

【ハワイ】(pp.32-40)

- 飯田耕二郎『ハワイ日系人の歴史地理』ナカニシヤ出版, 2003 (「資料1 ハレイワ地域の日系人人名録」 pp.145-153 「資料2 ハレイワの主な人物の履歴」 pp.154-157) < DC812-H19 >

官約移民初期から第二次大戦前まで(1885-1940年頃), ハワイにおける日系人の居住地・人口変遷・職業・出身地などにつき, 外交史料館所蔵史料や領事報告, 当時の年鑑・統計類に基づき分析する。

- 島田法子『戦争と移民の社会史—ハワイ日系アメリカ人の太平洋戦争』現代史料出版, 2004 (「引用文献」 pp.298-311) < DC812-H115 >

太平洋戦争時, アメリカ本土の日系人とは異なる境遇に置かれたハワイの日系人。多くの日本語資料に加え, ハワイ大学の「ロマンゾ・アダムズ社会調査研究所」(Romanzo Adams Social Research Laboratory)・「ハワイ戦争記録保管所」(Hawaii War Records Depository)・「ジョン・A・バーンズ・オーラルヒストリー計画」(John A. Burns Oral History Project)などの一次資料を多用し, 一世・二世・オキナワン(沖縄出身者とその子孫)・二世部隊・仏教・神道・日本語学校など, ハワイにおけるそれぞれの戦争体験を多角的に実証する。

ハワイ側の記録・証言として, 以下のものも参照のこと。Allen, Gwenfread E. **Hawaii's War Years, 1941-1945**. Kailua, Hawaii: Pacific Monograph, 1999 (Bibliography: pp.420-429, Chronology: pp.430-441, Reprint, Pacific War Classics) <未所蔵>, 国立国会図書館では原版及び著者の“Note & Reference”を所蔵。**Hawaii's War Years, 1941-1945**. [Prepared under the direction of the Hawaii War Records Committee of the University of Hawaii] Honolulu: Univ.of Hawaii Pr., [1950] (Bibliography: pp.379-390) < 940.53969-A426h >, **Notes and References to Hawaii's War Years; with a complete bibliography**, by Gwenfread Allen, assisted by Lloyd L. Lee and the Hawaii War Records Depository staff. Rev. and edited by Aldyth V. Morris. Honolulu: Univ.of Hawaii Pr., 1952 < 940.53969-

A426h > ,

Dye, Bob ed. **Hawai'i Chronicles III: World War Two in Hawai'i, from the pages of Paradise of the Pacific.** Honolulu: Univ.of Hawai'i Pr., 2000 (A Latitude 20 Book) < GB531-A158 >

【ハワイ史】(pp.40-43)

- ウィリアム・N.アームストロング [著], 荒俣宏訳・解説, 樋口あやこ共訳『カラカウア王のニッポン仰天旅行記』小学館, 2000 (小学館文庫)

< GB648-G13 >

既出, 127.『カラカウア王のニッポン仰天旅行記』小学館, 1995< GB648-E27 >の文庫版, 巻末資料は省略。

- 猿谷要『ハワイ王朝最後の女王』文藝春秋, 2003 (「ハワイ王朝関係略年表」 pp. 249-252 「参考引用文献」 pp.253-258, 文春新書)

< GK462-H1 >

ハワイ王朝の興亡を, 日本との関係も踏まえ描く。

【アメリカ】(pp.43-54)

- 筒井正『一攫千金の夢—北米移民の歩み』三重大学出版会, 2003

< DC812-H114 >

北米移民史のなかに, 愛知村・北米愛知県人会など, 愛知県出身移民の足跡を記す。

【カナダ】(pp.54-59)

- 山田千香子『カナダ日系社会の文化変容—「海を渡った日本の村」三世代の変遷』御茶の水書房, 2000 (「引用・参考文献」 pp.xxv-xlii)

< DC812-G130 >

「海を渡った日本の村」(和歌山県日高郡三尾村)からのカナダ移民の異文化接触と文化変容, エスニシティとアイデンティティについての, フィールドワークに基づいた民族誌。博士論文「カナダにおける日系移民のエスニック・アイデンティティとその変容—トロントとステイブストンの和歌山県出身者を事例として」お茶の水女子大学, 1997< UT51-98-W462 >を骨子として, 加筆・修正したもの。「序章「海を渡った日本の村」三世代の変遷」 pp.3-15 及び「第一章 課題と方法」 pp.17-59が, 研究史・概念枠組み・理論枠組みの検討を行う。

- 吉田忠雄『カナダ日系移民の軌跡—移民の歴史から問い直す国家の意味』増補版, 人間の科学新社, 2003 (「カナダ日系移民関係年表」 pp.320-325, 人間の科学叢書 2) < DC812-H23 >

既出, 138. 『カナダ日系移民の軌跡』人間の科学社, 1993 < DC812-E160 >に「日本移民政策小史」 pp.327-346を補章として付したもの。

- 立命館大学日系文化研究会編『戦後日系カナダ人の社会と文化』不二出版, 2003 < DC812-H28 >

多文化主義社会カナダにおいて, 再定住期から「リドレス redress」の時期まで, 戦後日系カナダ人・社会が抱えた政治的・文化的諸問題を追究する8論文を収録。「リドレス」成功の鍵としての「日系移民百年祭」の意義が検討されている。

- 横浜開港資料館編『横浜&バンクーバー—太平洋を越えて』横浜開港資料館, 2005 (「略年表」 p.31「主要参考文献」 p.32) < GC76-H35 >

横浜開港資料館で, 2005年11月2日~2006年1月29日まで開催された同展の図録(姉妹都市提携40周年記念)であるが, 展示会図録については, 纏めて収録できなかったのが, 例示的に掲出した。展示会図録の資料的価値としては, 出典(所蔵機関)の明示により, 資料の所在把握に資することであろう。

ホノルルの「ビショップ博物館」(1997年)を皮切りに, 日米各地を旅した, 全米日系人博物館巡回展「弁当からミックスプレートへ—多文化社会ハワイの日系アメリカ人」(From Bento to Mixed Plate: Americans of Japanese Ancestry in Multicultural Hawai'i)の図録は, **From Bento to Mixed Plate : Americans of Japanese Ancestry in Multicultural Hawai'i**. Los Angeles : Japanese American National Museum, c1997 < 移(六)-Y21 >, 日本語版は, 例えば, 新潟県立歴史博物館編『移民物語—弁当からミックスプレートへ—多文化社会ハワイの日系アメリカ人』新潟県立歴史博物館, 2002(会期:平成14年10月12日-11月24日) < DC812-H11 >となっている。

- 【アメリカ・カナダ移民一般/アジア系アメリカ人】(pp.59-61)

- 五十嵐武士・油井大三郎編『アメリカ研究入門』第3版, 東京大学出版会, 2003(各章末に「文献解題」あり, 「年表」 pp.271-276) < GH81-H7 >

『アメリカ研究入門』第1版(1969)及び第2版(1980)の目的意識を継承しつつも, 阿部小涼「19章 電子媒体による資料調査」 pp.259-270に象徴的に見られるように, 調査・研究環境の変化と爾後のアメリカ研究の発展を踏まえて, 内容・形式を一新した。

- 古矢旬・遠藤泰生編『アメリカ学入門』新版, 南雲堂, 2004(各章末に「文献解題」あり, 「アメリカ史年表」 pp. (7)-(10) < GH81-H11 >

各章末の「文献解題」はよく纏められており、「アメリカ学入門」者に相応しいガイドとなっている。

- S. マーフィ重松著、坂井純子訳『アメラジアンの子供たち—知られざるマイノリティ問題』集英社、2002（「引用・参考文献」pp.237-234，集英社新書）
＜EG57-G713＞

アメリカ軍事戦略の一つの結果としての、新たなマイノリティ「アメラジアン」についてのフィールドワーク。

- アジア系アメリカ文学研究会編『アジア系アメリカ文学—記憶と創造』大阪教育図書、2001（「AALA ライブラリー—アジア系アメリカ文学書誌」pp.494-475）
＜KS184-G111＞

「アジア系アメリカ文学研究会 *Asian American Literature Association in Japan: AALA*」（1989年発足）による、初めての本格的アジア系文学評論集。1993年以降開催されているフォーラムのテーマを骨子とし、1970年以降のアジア系アメリカ文学研究の主要な動向を反映する。植木照代「プロローグ記憶は未来を創造する力」pp.v-xviは、アジア系アメリカ文学の概観として有用。濱野成生「日系アメリカ人の歴史—ハワイへの移民」pp.17-30、桧原美恵「日系アメリカ人の歴史—アメリカ本土の移民」pp.31-43など、主なアジア系アメリカ人の歴史（「総論」）も簡明である。「戦争」「コミュニティ・家族」「ジェンダー・セクシュアリティ」「自伝」の各章テーマのほか、「第六章 新たな潮流」では、移動・越境・混血・エコロジーなどの新たな意識を提示する。AALA最初の成果とも言うべき、植木照代ほか『日系アメリカ文学—三世代の軌跡を読む』創元社、1997＜KS241-G13＞と併せ読むことで、この分野での研究の著しい進展と蓄積が感じ取られる。会誌は『AALA Journal』1：1994～＜Z12-B53＞。
（アジア系アメリカ文学研究会 <http://www013.upp.so-net.ne.jp/aala/>）

【資料集・叢書】（pp.61-66）

- 奥泉栄三郎監修・解説『初期在北米日本人の記録』北米編全103冊（合本75冊）・布哇編全17冊（合本12冊），文生書院，2003～（複製，Bunsei Shoin Digital Library）
＜DC812-H30＞ほか

現在，第二期刊行中。本シリーズの刊行リストについては，文生書院のウェブサイト（<http://www.bunsei.co.jp/denshi/hokubei01.htm>）を参照のこと。

本シリーズ第一期の別冊も有用。パイオニア情報館①『人物情報編』2006＜DC812-H192＞は1,600余名の日系人・日本人の人名録で385名

の肖像画を収録。パイオニア情報館②『北米関係総合出版年表編』2006 < DC812-H193 >は1853年頃から2003年までの、初期在北米日本人に関する出版情報のクロニクル。パイオニア情報館③『目次総覧編』2006 < DC812-H194 >は第一期全34冊の総目次集、「総合人名索引」も付す。

【<注>掲出の資料】

- 油井大三郎『なぜ戦争観は衝突するかー日本とアメリカ』岩波書店, 2007 (岩波現代文庫) < A99-UZ-H4 >
『日米戦争観の相剋ー摩擦の深層心理』岩波書店, 1995 < A99-UZ-E17 >に加筆, 新稿を加え構成を一新し, タイトルを変更したもの。
- 池澤夏樹『ハワイ紀行 完全版』新潮社, 2000 (新潮文庫) < KH177-G354 >
『ハワイ紀行』新潮社, 1996 < KH177-G72 >に新稿2編を加え, 再構成したもの。
- 野村實「アメリカのハワイ併合と日本海軍」『日本海軍の歴史』吉川弘文館, 2002, pp.27-32 (「参考文献」 pp.231-235 「年表」 pp.236-243) < AZ-664-G82 >
- 宮内省臨時帝室編修局編修『明治天皇紀』全12巻・索引, 吉川弘文館, 2000-2001 (吉川弘文館, 1968-1977 < 288.41-M448K4m >の複製) < 未所蔵 >
- よしだみどり『白い孔雀ーハワイ王朝最後の希望の星 プリンセス・カイウラニ物語』文芸社, 2002 (「参考文献」 pp.270-272) < KH739-G268 >
- 岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像ー山根吾一覚書』不二出版, 2000 < GK158-G34 >

【移民研究の新動向】

- (『参考書誌研究』66:2007.3, pp.30-37【歴史の再構築】【移民と植民】【国民国家と越境】【人種概念】も参照のこと。)
- 村井忠政編著『トランスナショナル・アイデンティティと多文化共生ーグローバル時代の日系人』明石書店, 2007 (明石ライブラリー108) < DC812-H254 >
グローバル化の進展のなかで, 非組織的な交流や国境を越えた労働力の移動といった「トランスナショナル」な移住が, 日系人のアイデンティティに及ぼす影響を考察する。太平洋戦争の戦前・戦中及び戦後の北米日系人及び南米諸国日系人の還流型移住がメイン・テーマとなっている。村井忠政「第1章 アメリカ合衆国における移民研究の新動向ートラン

スナショナリズムをめぐる論争を中心に」 pp.17-41が、移民研究においてパラダイム転換を迫る「トランスナショナル」な視座からのアプローチ論を整理する。

- アメリカ移民研究の動向を整理するものとして、以下のものも参照のこと。
野村達朗「アメリカ移民史学の展開 (1)－「新移民史学」以前のヨーロッパ系移民史研究」『人間文化』16：2001.9, pp.272-251 < Z22-1327 >,
「アメリカ移民史学の展開 (2)－「新移民史学」の台頭とその諸性格」『愛知学院大学文学部紀要』31：2001, pp.67-82 < Z22-789 >,
「アメリカ移民史学の展開 (3)－統合をめぐる今日の論議」『人間文化』17：2002.9, pp.278-257 < Z22-1327 >。

なお、日本移民学会第11回年次大会（2001年12月、於：白百合女子大学）シンポジウムは、「移民学 21世紀の展望－研究の射程と方法」をテーマとし、その報告が『移民研究年報』8：2002.3 < Z3-B399 >に掲載されている。野村達朗（基調講演）「アメリカ移民史学の展開－プル・ブッシュ理論からグローバルな移住史へ」 pp.117-133, 田中きく代（シンポジウム報告①）「移民史研究の射程と方法－アメリカ合衆国の移民史研究から」 pp.135-137, 有末賢（報告②）「グローバリゼーションと移民の社会学的研究」 pp.138-140, 小島勝（報告③）「「異文化間教育学」からの提案」 pp.141-142, 中牧弘允（報告④）「移民学における博物館活用のすすめ」 pp.143-144。移民研究（⇒移民学）における新たな動向への、日本移民学会としての認識は、第7回大会（1997年12月、於：関西学院大学）シンポジウム「移民研究の現状と課題」に遡る。報告は「移民研究の現状と課題 I <特集>」『移民研究年報』5：1998.12, pp.53-97 < Z3-B399 >。この2大会の成果を踏まえ、第14回年次大会（2004年6月、於：早稲田大学所沢キャンパス）では、大会テーマを「グローバリゼーションと移民－新旧移民の相剋」として、抽象論から具体的歴史事象へと論を進めることになった。本年次大会報告の『移民研究年報』への掲載はされていない。

- 米山裕・河原典史編『日系人の経験と国際移動－在外日本人・移民の近現代史』人文書院, 2007 < DC812-H264 >

立命館大学国際言語文化研究所のプロジェクト「環太平洋地域における日本人の国際移動に関する学際的研究」の共同研究の成果。「移動とエスニシティ」「移動の焦点としてのハワイ」「漁業と漁民の国際移動」「朝鮮と日本人の移動」に関する11論考を所収。米山裕「環太平洋地域におけ

る日本人の移動性を再発見する」 pp.9-23, 坂口満宏「新しい移民史研究にむけて」 pp.239-261が, 新しい移民研究の視座・方向性を提示し, 研究動向を纏める。

- 南川文里『「日系アメリカ人」の歴史社会学—エスニシティ, 人種, ナショナリズム』彩流社, 2007 (「文献一覧」 pp.後頁11-30)

< DC812-H255 >

日本人移民や日系人が, アメリカ社会において「日系アメリカ人」化する・される過程を考察し, その過程でエスニシティや人種という要素がどのように関わったかを分析する。

- 松本悠子『創られるアメリカ国民と「他者」—「アメリカ化」時代のシイズンシップ』東京大学出版会, 2007 <東京本館未所蔵>

「アメリカ化」における「私たち」と「他者」の境界の創出過程を考察。そのなかで, 日本人移民の越境戦略を論述する (未見)。

(4) 【新聞】

第54号：2001.3, pp.79-128

1 <正誤表>

頁 (行)	誤	正
82	(Hawaii Hochi エントリー中) Hawai'i's	<u>Hawai'i's</u>
84 (17)	田村紀雄・白水繁彦編『米国	田村紀雄・白水繁彦編著『米
85 (3)	田村・白水編『米国	田村・白水編著『米
93 (32)	続けた ³²⁾ 33)。	続けた ³²⁾ 。33)
97 (33)	『暗黒日記』 ⁴⁹⁾	『暗黒日記』 ⁴⁷⁾
99 (24)	七〇年年譜：239-257	七〇年年譜：pp. 239-257
102 (10)	民族移動の社会史』1991	の社会史』PMC出版, 1991
105 (10)	上掲示534と同内容。	上掲535と同内容。
111 (26)	(下掲注10) 参照)	(下掲注8) 参照)
112 (30)	「戦前の新聞」約50種	「戦前の外地の新聞」約50種
126 (22)	竹内善信「在米民権新聞」	武内善信「在米民権新聞」
126 (25)	竹内善信「新日本新聞社から	武内善信「新日本新聞社から

2 <追加記述>

○⑥大久保清：1905（明38）～ の記述（p.92）

「ハワイ島日本人移民資料館」館長・大久保清氏は、2001年12月10日逝去。資料館の資料は長く未公開のままで、その全容が明らかでなかったが、ハワイ島の「ハワイジャパニーズセンター」に移管される予定である（以下のインターネット情報に拠る）。

→中川美佐「大久保清さんを偲ぶ」『AALA News』No.20.21：2002.6（号数・年月不詳）<http://www013.upp.so-net.ne.jp/aala/news2.htm>

→http://hawaiianhealinghands.net/_wsn/page5.html

○United States Newspaper Program (USNP) (pp.112-113)

USNPの後を継いで、デジタル化計画 National Digital Newspaper Program (NDNP) が進行中である。<http://www.loc.gov/ndnp/index.html>
「全米電子新聞プログラム (NDNP) の進展」『カレントアウェアネス-E』112：2007.8.29, E684 <http://www.dap.ndl.go.jp/ca/modules/cae/item.php?itemid=701>も参照のこと。

○「全国新聞総合目録」データベース公開予定（p.113）

国立国会図書館及び全国約1,300機関の新聞の所蔵が検索可（公開済）
<http://sinbun.ndl.go.jp/>

3 <追加資料>

【概説書】(pp.82-88)

○白水繁彦『エスニック・メディア研究—越境・多文化・アイデンティティ』 明石書店、2004（付録「海外日本語新聞」pp.459-463, 「文献一覧」 pp.464-482） < EC235-H103 >

著者のこれまでの「論攷」を加筆修正ないし大幅改訂し、再構成したものの。第Ⅰ部「第1章 概説 エスニック・メディアの諸側面」pp.19-59は主要概念の定義及びエスニック・メディアの類型化をなし、その全体像を解明する。「第2章 エスニック・メディアの研究—日本における研究の系譜」pp.60-69も簡明で研究史の把握に資する。第Ⅱ部は「在日エスニック・メディアの諸相」、第Ⅲ部「海外エスニック・メディアの諸相」は、ハワイ・ニューヨーク・ブラジル・カナダにつき、発達史も含め詳述する。「終章 グローバリゼーションとエスニック・メディア—メディア、越境労働者、アイデンティティ」pp.434-453は、グローバリゼーションと文化及びアイデンティティの相互関係を考察することで、次なる研究への展

望としている。巻末「文献一覧」も浩瀚で、海外日系メディア研究の第一級のレファレンスとなっている。

- 日本新聞博物館編『企画展「海外邦字紙」と日系人社会 図録』日本新聞博物館，2002 < UC123-H1 >

日本新聞博物館で、2002年10月1日～12月23日まで開催された同展の図録。北米、ハワイ、中南米、アジア・オセアニア・ヨーロッパの各地域に分け、紙面を紹介し、沿革・現状を記す。各地域の「略年表」も付す。

【新聞人の評伝・研究論文】(pp.88-102)

- 最相葉月『星新一——〇〇一話をつくった人』新潮社，2007（「参考文献」pp.564-571） < KG536-H111 >

『日米週報』を創刊（明治32年，1899）した星一^{はじめ}の長男で、作家の星新一（本名・親一）の評伝。父の影響が強かっただけに、星一についても多く語られている。

- 渡辺知弘「清沢冽論」長野県現代史研究会編『戦争と民衆の現代史』現代史料出版，2005，pp.71-82 < GC117-H51 >

これまで「戦時下抵抗」という評価が定着している清沢を、「保守主義」の視角から論じ、清沢の「植民地論・帝国主義論」を検討する。北岡伸一・山本義彦らの研究を批判的に継承し、清沢の思想を再検討。なお本書には、小林信介「満州移民研究の現状と課題」pp.3-31も所収。

【アメリカ本土】(pp.104-106)

- 水野剛也『日系アメリカ人強制収容とジャーナリズムーリベラル派雑誌と日本語新聞の第二次世界大戦』春風社，2005 < UC23-H7 >

日系人の立ち退き・強制収容に対して、リベラル派雑誌『ニュー・リパブリック *New Republic*』『ネーション *Nation*』及び日本語新聞『ユタ日報』『日米』が、如何なる立場をとり、またジャーナリズムとして如何なる機能を発揮したのかを分析する。分析の枠組みとして、「番犬理論」（政府権力に対する監視機関）と「移民エスニック・ジャーナリズム理論」（当該エスニック集団の権益を擁護）に依拠する。ミズーリ州立大学（University of Missouri-Columbia）スクール・オブ・ジャーナリズムに提出した博士論文，Mizuno, Takeya. *The Civil Libertarian Press, Japanese American Press, and Japanese American Mass Evacuation*. Ann Arbor, MI: UMI, c2001, 2002 printing（Bibliographical References : pp. 366-381） < UC44-B1 >を大幅に加筆・修正したもの。

【カナダ】(pp.106-107)

- 田村紀雄『エスニック・ジャーナリズムー日系カナダ人, その言論の勝利』
 柏書房, 2003 (KASHIWA 学術ライブラリー-04) < UC151-H1 >
 エスニック・マイノリティとしての日系カナダ人(「出稼ぎ労働者」)の
 ジャーナリズムによる言論闘争に関する論考を集大成したもの。全体を通
 して、カナダにおける日系ジャーナリズムのキーパーソン・梅月高市うめづきたかいちの評
 伝という一面も併せ持つ。「あとがき」において、カナダ日系ジャーナリ
 ズム研究への、パークラ社会学の「初期シカゴ派」の影響を述懐してい
 る。

(5) 【雑誌-移植民奨励・情報誌類】

第58号：2003.3, pp.62-102

1 <正誤表>

頁(行)	誤	正
64 (12)	ハワイ・アメリカ本土・カナ	全行削除
64 (14)	ダで……付すにとどめた。	
65 (20)	『日本雑誌目次要覧』	『日本雑誌総目次要覧』
67 (21)	pp.V-XVI	pp.v-xvi
76 (26)	『郡是・町是資料マイクロ版	『郡是・町村是資料マイクロ
77 (22)	「国際日系プロジェクト	「国際日系研究プロジェクト
77 (23)	「国際日系プロジェクト	「国際日系研究プロジェクト
78 (3)	「国際日系プロジェクト	「国際日系研究プロジェクト
82 (38)	「殖(植)民団体」	「殖民団体」
82 (38)	「内国(植)殖民論」	「内国殖民論」
83 (33)	が結成した	が、北海道開拓のため結成
88 (28)	144. 田村・白水編『米国	144. 田村・白水編著『米国
89 (33)	『阿部磯雄の研究』	『安部磯雄の研究』
90 (14)	社主義欄を設くるの主意」	社会主義欄を設くるの主意」
100 (21)	参照。38) 主筆高橋	38) から行変え

2 <追加記述>

○571.『高知殖民協会報告』高知殖民協会に関する記述 (p.66, pp.83-84)

本稿では、「高知殖民協会」と「高知殖民会」を同組織ないし分派的組織として記述した。しかし、間宮國夫「高知殖民協会の設立と活動—一八九三～四年における」『土佐史談』225：2004.3, pp.1-12 < Z8-396 > は、その注記において、「高知殖民会」は「規則書も異なり、高知殖民協会とは別組織で北海道移住を目的としたものである。」として、崎山信義『ある自由民権運動者の生涯—武市安哉と聖園』高知県文教協会、1960 < 289.1-Ta557Sa > を引用している (P.12)。崎山書には、「高知殖民会規則 (案)」及び、その後の北海道移住についての記述はあるが、武市安哉が重要な発起人の一人であった「高知殖民協会」については言及されていない。この関係については、今後の課題としたい。なお、間宮の高知県移民史に関する最近の論考に「崎山比佐衛と海外植民学校—高知県移民史の一齣」『土佐史談』232：2006.7, pp.1-11 < Z8-396 > がある。

3 <追加資料>

【移民奨励・情報誌類】 (pp.74-75)

○『日本移民協会報告』第1-16：大3.10-8.6, 全2巻, 不二出版, 2006 (588.『日本移民協会報告』< 雑22-52 >の複製, 第1巻に「解説 (坂口満宏)」 「総目次」 「執筆者索引」あり) < Z79-B326 >

既述のように (『参考書誌研究』58, pp.74-75, p.102注43), 『日本移民協会報告』には広範な移民関係情報が掲載され、極めて重要な基本資料となっている。詳しくは、坂口満宏『『日本移民協会報告』解説』pp.1-13を参照されたい。このたび、国立国会図書館及び「明治新聞雑誌文庫」所蔵資料を併せ、【総目次】を付し、現存する全号を通しての復刻がなされた。

【<注>掲出の資料】

○『歴史学研究 総目録・索引1933-2006』青木書店, 2007 (『歴史学研究』別冊) < Z8-282 >

『歴史学研究』(歴史学研究会)の創刊号(1933.11)から822号(2006.12)までの総目録及び「会報」「月報」目録・執筆者索引を収録。『歴史学研究』の誌面変化と歴史学研究会の活動の軌跡を描く「解題」を付す。

○『移民研究』琉球大学移民研究センター, 1: 2005.3 ~

< Z71-N979 >

琉球大学法文学部地理学教室所蔵の移民関係資料を移管して、平成15年（2003）12月に設置された学内共同利用施設「琉球大学移民研究センター」の機関誌。初代センター長は石川友紀。石川友紀「沖縄県における出移民の歴史及び出移民要因論」『移民研究』1：2005.3, pp.11-30は、「出移民」要因論の研究史として有用。石川「＜資料1＞ペルー沖縄県出身移民100周年記念誌（仮）資料としての若干の文献目録と解題」『移民研究』2：2006.3, pp.69-78は、関係資料の解題。

（琉球大学移民研究センター <http://www.imin.u-ryukyu.ac.jp/>）

(6) 【雑誌-主要総合雑誌類】

第66号：2007.3, pp.1-91

1 <正誤表>

頁（行）	誤	正
4（3）	(p.46注52【雑誌の研究】	(本号 p. 46注52【雑誌の研 以下同様に、本稿（号）の参照頁なの か、引用資料の頁なのか、分明でない 表記が複数箇所あるので、注意をされ たい。

2 <追加記述>

○国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」の記述（p.26）

「国立国会図書館所蔵の明治期刊行図書の殆ど全てが、……」

→平成19年7月、大正期刊行図書（資料）約7,200タイトルが追加公開された。明治期資料約240タイトルの追加とともに、近代デジタルライブラリーでの公開資料総数は、約97,000タイトル（約143,000冊）となった。

（近代デジタルライブラリー <http://kindai.ndl.go.jp/>）

3 <追加資料>

【主要総合雑誌類『実業之日本』】（pp.19-21）

○鈴木範久編，新渡戸稲造[著]『新渡戸稲造論集』岩波書店，2007（「新渡戸稲造略年譜」pp.315-318，岩波文庫） <US21-H118>

『新渡戸稲造全集』全23巻・別巻2，教文館，1969-2001 <US21-3>

に未収録のものを含め、新渡戸の思想理解と今日のわが国にも資するという観点から、「教育論」「人生論」「デモクラシー論」「国際関係論」のテーマで纏めたもの。「デモクラシーの要素」（『実業之日本』22卷3号：大8.2）など、編輯顧問を勤めた『実業之日本』に寄稿した論稿5点を含む。

【<注>掲出の資料】

- 『徳富蘇峰 終戦後日記―「頑蘇夢物語」 歴史篇』講談社，2007（付録「満洲国皇帝・溥儀との会見録」 pp.379-385，解説：戸部良一）
＜ GB561-H88 ＞
- 有山輝雄『陸羯南』吉川弘文館，2007（「略年譜」 pp.277-292 「参考文献」 pp.293-300，人物叢書・新装版）
＜ GK77-H116 ＞

（じん しげじ 新聞課）